

平成26年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年5月12日

上場会社名 カルナバイオサイエンス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4572 URL http://www.carnabio.com  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)吉野公一郎  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経営管理本部長 (氏名)相川 法男 (TEL) 078-302-7075  
 四半期報告書提出予定日 平成26年5月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年12月期第1四半期の連結業績(平成26年1月1日~平成26年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第1四半期	168	△5.0	△109	—	△111	—	△111	—
25年12月期第1四半期	177	39.0	△71	—	△68	—	△71	—

(注) 包括利益 26年12月期第1四半期 △83百万円(—%) 25年12月期第1四半期 △16百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第1四半期	△13.50	—
25年12月期第1四半期	△9.83	—

(注) 当社は、平成26年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき100株の割合で株式の分割を実施しております。そのため、1株当たり四半期純利益につきましては、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年12月期第1四半期	1,795	1,514	83.8
25年12月期	1,888	1,597	84.1

(参考) 自己資本 26年12月期第1四半期 1,504百万円 25年12月期 1,587百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年12月期	—	—	—	—	—
26年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日~平成26年12月31日)

当期の連結業績予想につきましては、従来、創薬事業において、当社研究テーマの大手製薬企業等への導出一時金収入等を想定して売上高予想を記載しておりましたが、本予想数値の公表が当社創薬事業の導出活動における最大価値創出の阻害要因として作用することが想定されることから、平成25年12月期決算短信より、次期の当社グループの業績予想は創薬支援事業の数値(売上高831百万円(対前期比7.7%増)、営業利益191百万円(対前期比23.1%減))のみ公表することといたしました。それに伴い、全社の業績予想についても記載しておりません。なお、直近に公表されている業績予想からの修正はありません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年12月期1Q	8,265,000株	25年12月期	8,265,000株
-----------	------------	---------	------------

② 期末自己株式数

26年12月期1Q	—株	25年12月期	—株
-----------	----	---------	----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年12月期1Q	8,265,000株	25年12月期1Q	7,280,000株
-----------	------------	-----------	------------

(注) 当社は、平成26年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき100株の割合で株式の分割を実施しております。そのため、平成25年12月期の期末発行済株式数及び期中平均株式数につきましては、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定してそれぞれ算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

本四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。本四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、本四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	3
4. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間においては、米国経済が個人消費の持ち直しなどにより緩やかな回復基調で推移するとともに、欧州においても輸出の増加傾向に伴い緩やかな回復基調で推移するなかで、わが国経済は緩やかな輸出増加や内需の下支えにより回復傾向にあるものの、平成26年4月の消費税増税による個人消費の落ち込み懸念やウクライナをはじめとする国際情勢の不透明感から先行き不透明な状況で推移いたしました。当社グループが属する製薬業界におきましては、これまでに引き続き、大手製薬企業における大型医薬品の特許切れに伴う収益力の低下から、新たな大型医薬品の開発が急務となっており、新薬の研究開発競争は依然激しい様相を呈しております。このような環境の中で、大手製薬企業は自社研究を継続しつつも、当社をはじめとするバイオベンチャーが研究開発した新薬を導入する動きを強めており、当社が研究開発している創薬テーマについても、継続して高い注目を集めております。

このような外部環境の中、当社グループは、キナーゼ創薬に係る創薬基盤技術を核とした創薬支援事業並びに創薬事業を積極的に展開し、事業の拡大を図ってまいりました。

セグメント別には、創薬支援事業におきましては、北米地域の売上拡大が特に重要であるとの経営方針に基づき、大手製薬企業並びに有力バイオベンチャー企業等への提案営業に注力するとともに、学会や展示会等へ積極的に参加し、当社製品、サービスの認知度向上に努めてまいりました。製品別には、キナーゼタンパク質製品やプロファイリング・スクリーニングサービス等の既存製品、サービスの拡販に取り組むとともに、RPPAサービスやその他セルベースアッセイを中心としたオンリーワン製品・サービスの売上拡大に取り組んでまいりました。また、もうひとつのセグメントである創薬事業におきましては、ガンを重点疾患領域として創薬研究に取り組んでおり、その中でもガンの再発・転移の原因と考えられているガン幹細胞を標的としたプログラムに注力しています。固形ガンの領域では、独立行政法人国立がん研究センターとの共同研究でTNIKキナーゼ阻害薬の研究開発を進めており、また、新たに当第1四半期において、金沢大学がん進展制御研究所と血液ガンのガン幹細胞を標的とした共同研究契約を締結しました。これら創薬プログラムのように新規コンセプトに基づく創薬に挑戦し、ガン領域での革新的な新薬の創出を目指してまいります。さらに、もう一つの重点疾患領域である免疫炎症疾患についても、BTK阻害薬プログラムの前臨床研究を着々と進めており、画期的な低分子治療薬の創出を目指してまいりました。これら創薬研究と並行して大手製薬企業等への導出交渉を積極的に行ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は168百万円（前年同四半期比5.0%減）、営業損失は109百万円（前年同四半期は71百万円の損失）、経常損失111百万円（前年同四半期は68百万円の損失）、四半期純損失111百万円（前年同四半期は71百万円の損失）となりました。

セグメント別の業績は次の通りです。

#### ①創薬支援事業

キナーゼタンパク質の販売、アッセイ開発、プロファイリング・スクリーニングサービス及びセルベースアッセイサービスの提供等により、創薬支援事業の売上高は168百万円（前年同四半期比5.0%減）、営業利益は33百万円（前年同四半期比41.3%減）となりました。売上高の内訳は、国内売上は95百万円（前年同四半期比13.5%減）、北米地域は53百万円（前年同四半期比37.0%増）、欧州地域は15百万円（前年同四半期比39.5%減）、その他地域は3百万円（前年同四半期比121.5%増）であります。

#### ②創薬事業

当第1四半期連結累計期間の創薬事業において、売上高の計上はなく（前年同四半期は売上高の計上なし）、営業損失は142百万円（前年同四半期は127百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

	前連結会計年度末	当第1四半期 連結会計年度末	増減
総資産 (百万円)	1,888	1,795	△93
純資産 (百万円)	1,597	1,514	△83
自己資本比率 (%)	84.1	83.8	△0.3

当第1四半期連結会計期間末における総資産は1,795百万円となり、前連結会計年度末と比べて93百万円減少しました。その内訳は、現金及び預金の減少144百万円、売掛金の減少24百万円、有形固定資産の増加35百万円、投資有価証券の増加44百万円等によるものであります。

負債は281百万円となり、前連結会計年度末と比べて9百万円減少しました。その内訳は未払金の減少10百万円、長期借入金の減少9百万円、繰延税金負債の増加15百万円等によるものであります。

純資産は1,514百万円となり、前連結会計年度末と比べて83百万円減少しました。その内訳は四半期純損失111百万円の計上、その他有価証券評価差額金の増加28百万円等によるものであります。

また、自己資本比率は83.8%（前連結会計年度末は84.1%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年2月7日公表の「平成25年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載の平成26年12月期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、継続して営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況（重要事象等）が存在しております。

当該重要事象等を解消するために、当社グループは、創薬支援事業においては更に拡販に努めることで売上の上積みを図るとともに、創薬事業においては研究開発をさらに推し進め、新薬候補化合物を製薬企業等に導出することで契約一時金等の収入を獲得してまいります。さらに、研究開発の効率化及び諸経費の節減等により販売費及び一般管理費の圧縮に継続的に取り組んでまいります。

以上により、早期の全社業績の黒字化を達成し、当該重要事象等が早期に解消されるよう取り組んでまいります。なお、当社グループは事業活動を継続するための十分な手元資金を保有しております。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,067,570	923,004
売掛金	119,877	95,854
商品及び製品	97,076	95,265
仕掛品	6,106	8,561
原材料及び貯蔵品	15,443	25,117
その他	54,960	50,229
流動資産合計	1,361,035	1,198,033
固定資産		
有形固定資産	36,168	71,569
無形固定資産		
のれん	245,090	236,013
その他	36,547	35,647
無形固定資産合計	281,637	271,660
投資その他の資産		
投資有価証券	192,805	237,274
その他	17,328	17,090
投資その他の資産合計	210,134	254,365
固定資産合計	527,940	597,595
資産合計	1,888,976	1,795,628

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	4,216	884
1年内返済予定の長期借入金	36,072	36,072
未払金	51,596	41,120
未払法人税等	10,085	2,905
その他	27,842	32,821
流動負債合計	129,813	113,804
固定負債		
長期借入金	104,462	95,444
繰延税金負債	30,541	46,275
資産除去債務	24,196	24,317
その他	2,100	1,575
固定負債合計	161,299	167,611
負債合計	291,113	281,415
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,602,728	2,602,728
資本剰余金	1,422,375	1,422,375
利益剰余金	△2,489,364	△2,600,902
株主資本合計	1,535,739	1,424,200
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	48,887	77,485
為替換算調整勘定	3,323	2,614
その他の包括利益累計額合計	52,211	80,099
新株予約権	9,911	9,911
純資産合計	1,597,862	1,514,212
負債純資産合計	1,888,976	1,795,628

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
売上高	177,048	168,130
売上原価	58,369	54,828
売上総利益	118,679	113,302
販売費及び一般管理費	189,706	222,412
営業損失(△)	△71,027	△109,110
営業外収益		
受取利息	57	65
受取補償金	-	674
為替差益	4,832	-
その他	410	105
営業外収益合計	5,299	844
営業外費用		
支払利息	465	600
新株予約権発行費	2,422	-
為替差損	-	2,322
その他	203	254
営業外費用合計	3,091	3,177
経常損失(△)	△68,819	△111,442
特別損失		
減損損失	2,200	-
特別損失合計	2,200	-
税金等調整前四半期純損失(△)	△71,020	△111,442
法人税、住民税及び事業税	586	162
法人税等調整額	△72	△67
法人税等合計	513	95
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△71,533	△111,538
四半期純損失(△)	△71,533	△111,538



四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△71,533	△111,538
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	51,852	28,597
為替換算調整勘定	3,359	△709
その他の包括利益合計	55,211	27,888
四半期包括利益	△16,321	△83,650
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△16,321	△83,650

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		
	創薬支援事業	創薬事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	177,048	—	177,048
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	177,048	—	177,048
セグメント利益又は損失(△)	56,705	△127,732	△71,027

(注) セグメント利益又は損失の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しており差額はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結累計期間において、「創薬事業」に係る減損損失2,200千円を計上しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		
	創薬支援事業	創薬事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	168,130	—	168,130
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	168,130	—	168,130
セグメント利益又は損失(△)	33,287	△142,397	△109,110

(注) セグメント利益又は損失の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しており差額はありません。